

市内の児童生徒の 学力や生活習慣は？

1. 調査の概要

- 実施日 平成31年4月18日（木）
- 対象 ▽小学校6年生（市内9校、311人） ▽中学校3年生（市内4校、288人）
- 調査内容 ①教科に関する調査 ▽小学校（国語、算数） ▽中学校（国語、数学、英語）
②質問紙調査 ▽児童生徒に関する調査 ▽学校に対する調査

相馬市の強み（よさ）と課題

2. 学力の状況

小学校	<p>▽国語は、平均正答率が全国を上回っており、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において学習内容の定着につながっています。また、短答式や記述式の問題においても全国を上回っており、書く力が育っています。</p> <p>▽算数は、平均正答率が全国を下回っており、中でも「数と計算」、「量と測定」、「図形」の領域で全国平均を下回っています。記述式の問題は、無解答率が全国平均より少ないものの、求められる解答の条件を満たしていないため、誤答となる傾向が見られます。</p>
中学校	<p>▽国語は、平均正答率がおおむね全国平均であり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均を上回っており、着実な習得ができています。また、小学校同様、短答式や記述式の問題においても全国を上回っており、しっかりと書く力が育っています。</p> <p>▽数学は、平均正答率が全国を下回っており、特に、「関数」、「資料の活用」の領域で問題解決の方法を数学的に説明する問題や確率の問題に課題が見られます。</p> <p>▽英語は、平均正答率が全国を下回っており、中でも短答式、記述式の問題で全国平均を下回っています。特に「聞くこと」、「書くこと」の領域で、会話を聞いて情報を読み取る問題、書かれた内容に対して自分の考えを書く問題に課題が見られます。</p>

3. 生活習慣の状況～児童生徒質問紙調査から～（以下の項目で、全国平均を上回っています）

【学習面】 学習方法を理解し、計画を立てて家庭学習に取り組む姿勢、読解力、書く力が育っています

- (1) 家で自分で計画を立てて勉強している
- (2) 学校の授業時間以外で、平日（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をしている
- (3) 学校以外で、平日（月～金）1日当たり30分以上読書をしている
- (4) 新聞を読んでいる
- (5) 友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
- (6) 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている

【生活面】 基本的な生活習慣が身につく、人を助ける気持ちや何事にも挑戦する姿勢が育っています

- (1) 食事や起床・就寝時刻など、基本的な生活習慣が着実に定着している
- (2) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している
- (3) 人が困っているときは、進んで助けている
- (4) 先生はあなたのよいところを認めてくれている
- (5) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている
- (6) 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う

調査の結果から、学習習慣や基本的な生活習慣が定着し、地域や社会について考える子どもが多いと言えます。一方、「将来の夢や目標を持つ」や「人の役に立つ人間になりたい」の項目は、昨年度より向上しているものの、小学校で全国平均をやや下回っています。今後も教育委員会は、企業などの見学・体験学習を重視し、自分の将来を見つめさせるよう図っていきます。

学習は、記述式の正答率や無回答率が少ないことから、新聞やコラムシートを活用した週末課題の一定の成果が見られます。教育委員会は、家庭学習の成果をさらに確実なものとするために、「学校での学習」→「家庭での予習・復習」→「学校での学習」というサイクルを確立させ、家庭学習の質的向上と習慣化を図っていきます。

●問い合わせ先 学校教育課（☎ 37-2185）